

事業所における自己評価(公表)

児童発達支援

公表:令和 年 月 日

事業所名 乳幼児親子教室

	チェック項目			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ		
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16	1		人数によって遊びの場を分けるなど工夫している。もとも指導訓練室としての建物ではないので十分ではない。限られた環境の中でスペースの確保や遊び方使用の仕方に工夫をしようと努めています。
	② 職員の配置数は適切である	16	1		職員の急な休みなどの場合は他クラスと協力しながら調整している。基準は満たしていますがもう少し余裕があるとさらに丁寧に寄り添った保育が出来ると思います。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11	6		設備などを改善するのが難しい場合は保育者が丁寧に声掛けをして配慮している。おもちゃや絵本は子どもの特性に合わせて使いやすい様に配置するようにしている。出来る範囲で配慮してその都度気になる点などは改善するよう心掛けている。送迎時に危険が無いように職員が必要に応じて尽くすなど工夫している。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	15	3		清掃などを気を付けて行っている。清潔は心がけ清掃、消毒なども十分に気を付けるようにはしている。活動により配置を変えるなど工夫している。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	16			職員会議の中で周知を行っている。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	18			改善できそうな項目から順次取り組んでいる。第3者評価等で提示された意見など丁寧に応えていると思います。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	1		行われている。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	18			
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	18			年三回の合同職員会議で研修を行い、最低年一回は外部研修会への参加が決められている。
適切	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	18			アセスメントシートを基に行っている
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	15	1		アセスメントツールを全職員(パート職員含む)で共有するまでには至っていない。

な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	15			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	18			前期、後期と振り返りが出来るようになっている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	16	1		チームと言った形態ではない。時間をとり話し合うと言った形 見直しはする。毎月のリーダーを中心に行っている
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16	1		子どもの発達に合わせて行っている。1~2カ月で設定し、その日の子どもに合わせて工夫している。積み重ねていく大切さ、発達や興味に合わせていくなどのバランスを大切にしている
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	18			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	3		全員が集まったの打ち合わせは無し。ボードや個人でノートなどで確認するとともに職員間で話す事はしている。朝一同に会しては難しいが連絡ボードや日誌又は口頭で工夫し行われている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	18			その日の反省打ち合わせなど毎日行っている。担当児のみならず全体の把握、共有をしている。毎日必ず行っています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	18			クラス全体として記録を取ると共に個別の記録も毎日つけている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	18			モニタリングでの内容を伝えて頂き役立てています。
	関係機関や保護者と	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	17		
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	18			保健所からの問い合わせに答えたり連携した支援をしている。江東区内の保健所保健師と年に2回会議を行っている。
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	16			区内で行っている連絡会や勉強会に職員が参加している。
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	13	1		個々の主治医の把握はしている。協力医療機関は整えている 東部療育センターと通所児童に関する情報交換をしている。
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17			電話や訪問により情報共有を図っている。申送りが丁寧に行われ見学も行っている。他園からの見学も行われています。
26		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16			城東特別支援学校へ新一年生として入学する子どもの情報を共有する機会がある。申送り、学校見学、行事の見学など行っている。

の連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	17	1		連携はしているが助言や研修は個人的に受けた事はない。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	17			保育園のリズム(リトミック)などに参加して交流している。親御さんが主体的にそのような機会を活用している場合は支援していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	17			各所長が会議へ出席し、職員会議で報告している。子ども家庭支援センターなどとの連絡会が行われています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	18			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	12	2		職員が研修に参加しているが通所の保護者には実施していない。法人全体の勉強会を開催し、家族支援の機会を作っている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	17			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	18			年2回の面談の他日々の送迎時に行っている。面談などで説明し、同意を得られるようにしています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	18			十分な時間をとり定期的に個人面談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18			卒室をした保護者を交えての保護者会や父親によるおやじの会などがある。保護者のニーズの変化にも目を向ける事も必要な時もあるかと思えます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	18			相談などがあった場合はその都度迅速に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	18			毎月おやこ教室NEWSを発行。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	18			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	18			各家庭の状況などを把握しそれに合わせた伝達をするよう配慮している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17			おやこまつり(バザー)を開催している。町内会の行事への参加など
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	18			総括会議に於いてグループごとに現状や課題などを話し合うと共に学び改善点等についても意見を交換し合った。様々なケースを踏まえた訓練をさらに行っていく必要もあると思えます。
非常時等の	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	18			定期的に避難訓練を行い反省点、改善した方が良い点などを話し合っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	18			個別に医療カードを作成している。又年度初めに1人ずつの確認引き継ぎを行い把握している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	2		医師からの指示を保護者を通じて聴き取り対応している。

対応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15	1		ちょっとした事でも自分がはつとした事は伝えている。事例は記入しているが全職員が手軽に読めるようさらに工夫が必要。新たな気付きにも役立てたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	17			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達計画に記載している	11	2		自傷他害の場合などは保護者に説明している。拘束事例なし 行われる事はないが些細な行為と思いがちにならぬよう心掛け他者の目も大切にすることを努めていると思います。